

魔法のmedicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：高橋和秀（鈴木和希） 所属：横浜市立中村特別支援学校 記録日 2021年2月19日

キーワード：スケジュール、見通し、自己肯定感、自己決定、学習習慣

【対象生徒の情報】

- 学年 中学部2年生
- 障害と困難の内容
 - ◎知的障害 肢体不自由 左目が見えていない 気管切開で吸引が必要。
- 現時点で発達（知能）検査は行っていない。→保護者へ依頼
- 身体障害者手帳：1種1級 ※療育手帳B1（中度）
- 障害者受給者証：有

生活面

- 自分で歩いたり、電動車椅子を操作したりして、目的の場所まで行くことができる。
- お笑いやバラエティー、アイドルなどの動画に関心が高い。
- 学校は基本的に好きで登校したいと思っている。学校と自宅での過ごし方を分けている。学校で頑張ると、家で荒れてしまうことがある。

学習面

- 興味関心の高いことは覚えていられる。夢中になっているときには黙々と取り組んでいる。
- 各教科担当と個別学習を行っている。窓際に机を配置し、衝立で集中できる環境を設置している。
- 漢字の読みは小学6年生程度、書字は小学2・3年生程度。書字に苦手意識がある。
- 音読は登場する人物によって声色や話し方を変えて読むことができる。
- 四則計算を理解している。
- 小数や分数の表し方については理解できていない。
- 正負の加減ができる。
- 身近なものの英単語をいくつか知っている。
- 簡単な英会話ができる。
- 日本地図は、だいたいの位置や地方について理解している。
- 理科の実験には興味があり、意欲的に取り組むことができる。

ICT機器の操作に関して

- 機器の操作に関心が高く、パソコンのExcelで表を作ったり、Wordで日記を書いたりすることができる。
 - ※両手でのキーボード入力は機能的に制限があるため、主に片手で入力を行っている。
- 自分のスマホで入力、調べるなどの操作はほとんどできている。
- これまで学習でICT機器を使用していない。

コミュニケーション

- 友だちに対して、一緒に出掛けたり、本の読み聞かせをしたりするなど優しい一面がある。
 - 敬語や丁寧語など適切な言葉遣いや態度で接する様子も増えてきているが、慣れてくるとくだけた口調になってしまうことがある。

【活動進捗】

- ・当初のねらい 「時間を意識して行動できるようになる。」

【今年度の学習目標】

- ① スケジュールを確認する習慣を身につけ、活動の見通しをもてるようになる。→**取り組み①**
 - ② タブレット端末を活用して学習に取り組み、学習習慣を身につけることができる。→**取り組み②**
- ・実施期間
2020年6月～2021年2月
 - ・実施者 高橋和秀 鈴木和希
 - ・実施者と対象児の関係 ICT活用担当として、前年度から関わっている。※鈴木教諭が今年度生徒担当。

【活動内容と対象生徒の変化】

- ・活動の具体的内容

取り組み①

目標：ICT機器を活用してスケジュールを管理することで、確認しながら見通しをもって過ごす。

事前の生徒の状況：自分で記入する項目数が多く、振り返りに時間がかかっていた。また、達成できていなかったときにやる気を失って疲れてしまう姿が見られていた。

活動の内容

スケジュールに関して、1日の流れをiPadで確認できるようにする。

- ・朝学活前にスケジュールの確認をする。
- ・1日の中で気持ちの切り替えが特に必要な場面を聞き、ホワイトボードに時間を明記する。
- ・ふりかえりの評価は指導方針の時間意識を重視したいところから、シンプルに時間の評価にする。

※評価基準⇒○・・・時間が守れた

×・・・時間が守れなかった

ボーナス・・・1日の活動の様子（ミスを取り返そうとしていたなど）、下校の様子から加減する。

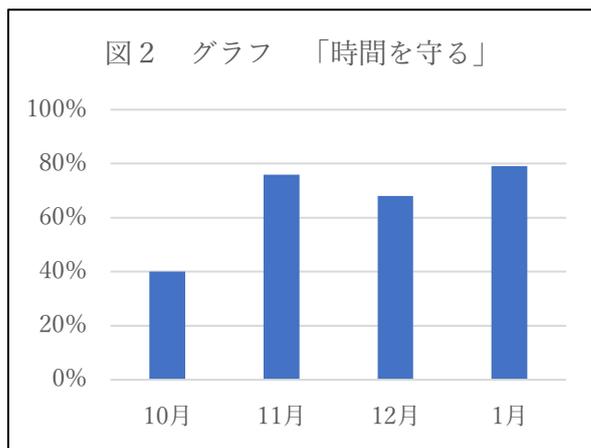
※時間は、守れたか守れなかったかのどちらかで判定する、※△（おいしい）という評価はしない。



図1 「スケジュール」

対象生徒の事後の変化

iPadでスケジュール表を確認、時間を意識することへの意欲が高く、iPadや腕時計、机に置いた時計などで時間を確認し、給食時にも予定の画面を見ながら過ごす徹底ぶりを発揮していた。生徒の気持ちが高まって調子のよい時は、スケジュールを守りながら過ごしているが、調子の良くない時は、スケジュールを守れない、話を聞けないなど波がある様子が見られた。「スケジュールを守ることが大事なのは分かっているけど、気分が乗らないんだよね。」という生徒に対して、遅刻は何故いけないのか、社会に出たときに仕事に就けない、時間を守れ



ないことで損をしてしまう、という説明を行った。そのことに納得できたようで、その後、時間に関しては、遅れることは少なくなっている。

(図2)

進路担当の教員から進路学習を受ける際には、始まる時刻の約束を意識しており、予定時刻前に余裕をもって教室前に着くことができ、ほめられると嬉しそうな表情をしていた。

授業に対して見通しがもてるようになってくると、スケジュールは登校、下校の時刻を守っていたかを確認するようにし、一日の目標がクリアできたかをチェックするようにシートを改善した。6月にスケジュール表の確認をiPadのスケジュールを見ることを忘れていたり、見ても見落とししたりしてしまうことがあった際には、生徒と一緒にスケジュール表を見直して、どのようなスケジュール確認するのがよいのか話し合った。生徒から「時間をかけずに〇×でつけたい」、「変更したときに自分の書いた字の方が覚えていられる」などの意見を取り入れながらパソコンで視覚的に見やすく分かりやすいスケジュール表を作成した。

(図3) また、一日のスケジュールの振り返りを行う際に、自分で記入する紙ベースへと切り替えた。振り返りがスムーズに行えるようになったことで、

下校準備をするときに調子がよい時には5分早く準備することができた。毎日机の上に自分で書いたスケジュールを準備するようになり、自分で決めたことに対して責任をもつようになってきている。(図4) また、学習時には、スクリーンタイムで時間調整することでiPadを使用する時間を決めることができ、落ち着いて調べ学習の課題に取り組むことができた。

取り組み②

目標：ICT 機器を活用した学習スタイルで、学力の空白を補いつつ、学習習慣を身に着ける。

活動の内容

学習環境の構造化を行い、集中できる環境を設定する。iPadを活用して学習に参加する。クラスでの発表の場を生かして、自分のできることを発表したり、みんなに役立つ仕事をしたりすることで自信をつけていく。

学習環境

衝立で学習スペースを区切り、集中できる環境を整えている。机上でPCによるキーボード入力を行い、スケジュールを作成したり、ノートテイクを行ったりする。入力の際はPCの方が使いやすい様子。教科の学習では、パワーポイントで作成したスライド教材を主に活用している。

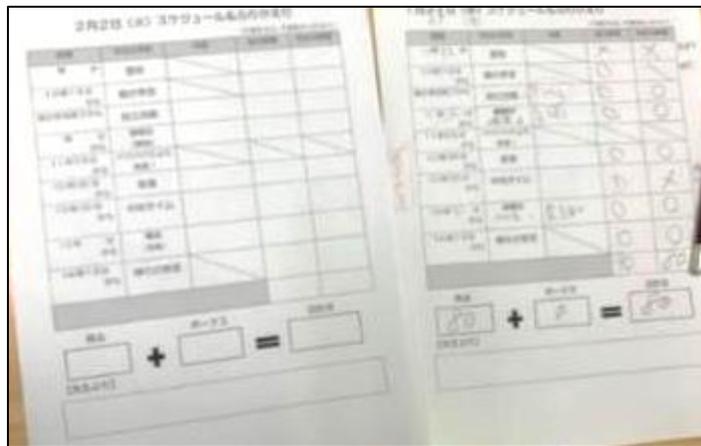


図3：一日の振り返り表

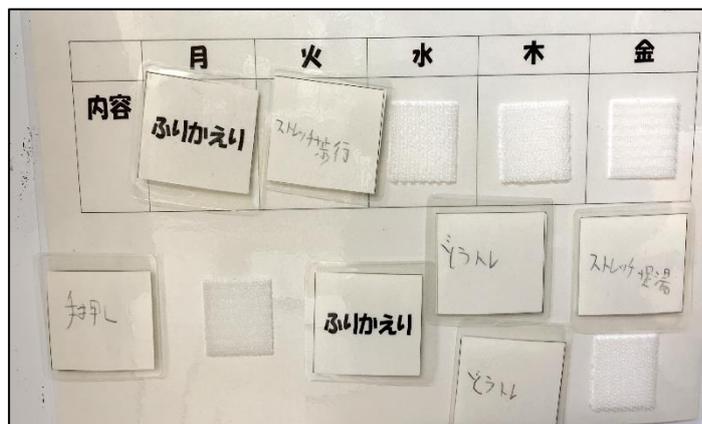


図4：自分で書いたスケジュール表

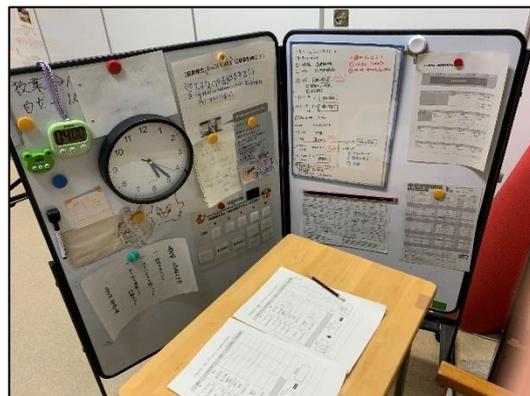


図5：学習環境

クラスでの植物観察

アプリで写真とコメントを入れて3枚以上になると自動的にコマ送り動画が作成できる。

対象生徒の事後の変化

新型コロナウイルス感染症の影響で校内の移動が制限されて、ほぼ全ての授業が教室で行われる状況だった。課題別学習では、個別スペースを利用して、机上のPCでスライドを見たり、データを作成したりする学習を受けられるようにした。

パワーポイントでの資料を見ながら行う学習では、好きなイラストや苦手なイラストがあることから、生徒の意見を取り入れながらスライドを作成することで、授業の内容に興味を示して取り組んでいる様子が見られた。

ラディッシュの観察日記を始めた時には、アプリで記録することに意欲を見せていて、朝は自主的に観察するようになった。成長の様子を確認していく際に、コメントをつける機能を利用して、欠かさず

記録をつけて友達に報告することがあった。茎の色を見て実ができる場所を予想し、見事的中させることができた。大切に育てたラディッシュを無事に収穫することができた。



図6：ラディッシュの観察



図7：観察日記を使って撮影

【報告者の気づきとエビデンス】

- 主観的気づき
- 取り組み①について

スケジュールを確認し、見通しをもつことで行動できるようになってきたのではないか。

エビデンス

PCでの入力でのスケジュールや目標を作成していたが、自分で記入することの大切さに気づき、スケジュールの確認にも時間をかけることで見通しをもつことができるようになってきた。

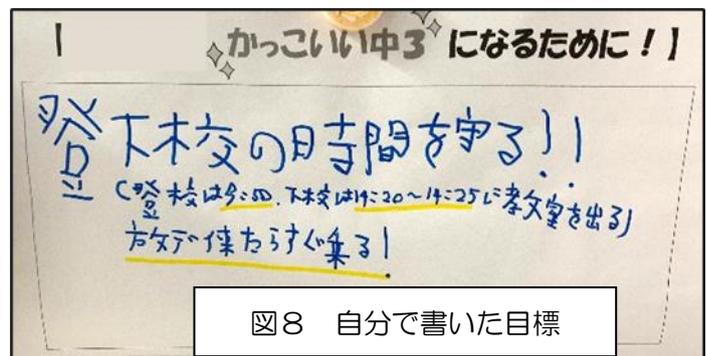


図8 自分で書いた目標

自分で決めたスケジュールとして行動することで、決めたことを守るようになり、11月・12月の振り返りから1月の振り返りでは、下校時間を守れた○が11、×が2と下校の際に達成率に大きな変化が見られた。(図10) ※得点計算は、生徒が理解しやすいように教員オリジナルの採点方式で行っている。

「今日は楽しかった」などその日の活動に満足することが生徒にとって気持ちよく一日を終えるスケジュールになっていることがうかがえた。

下校時刻を過ぎてしまうことに対して、「家についてつまらない、することがない。」と生徒の話から下校時刻を過ぎてしまう要因が感じられた。下校時刻を過ぎてしまうことが度々あったが、家族の協力で楽しみを作ることと、スケジュールを自分で納得して決めたことで教員と下校時刻には離れるようになってきている。

図9：スケジュールふりかえり

その他のエピソード

曜日ごとに昼休みの過ごし方を決めて、校内を散歩したり、友達と過ごしたりするようになった。スケジュールの見直しをもつことで、自分の過ごす時間の使い方にも幅が広がってきているのではないかな。

進路学習にも意欲的に取り組んでいる。どのような進路があるかを知るために、自己吸引や自分で公共交通機関を利用することなど、自分自身に必要なことは何かを見つめ直すことに取り組んでいる。



図10：進路学習

取り組み②について

ICT 機器を活用した学習スタイルで、少しずつ学習習慣を身に付けてきているのではないかな。

パソコンを扱う活動では、ワード、エクセル、パワーポイントを中心に取り組んでいる。自分で文字を書くことに時間がかかったり、客観的に見て伝わりにくいことがあったりするため、文章を書く時にはワードを使用してタイピングを行った。将来はパソコンを使った仕事に就きたいと望んでいることから、エクセルでの基本的な入力操作やパワーポイントでのイラストや写真、文字を組み合わせたレイアウトの作成にも集中して取り組んできている。繰り返し行う活動に見直しをもって取り組み、片付けを含めた終了時間を守るようになってきている。

<p>ワード</p> 	<p>文書等（進路に向けた）の作成 進路学習を行う際には、日時の予約をワードで作成し、前回の振り返りも行っている。 言葉遣いも丁寧に入力して、何度も見直して作成して、完成したときには、担任の教員にも最終確認をお願いしていた。</p>	<p>先生</p> <p>次回の漢塾予定日なのですが、2月8日を希望します。 宝探しとても楽しかったです。 詳しい感想は当日発表いたします。 よろしく願います。</p>
--	--	--

図11：進路担当の教員へ

<p>エクセル</p> 	<p>表計算やグラフ等の作成</p> <p>好きな芸能人の出身をまとめるデータベースを基に入力の練習を行っている。氏名、生年月日、出身地、などの項目を入力したときには、10月当初、6名分を入力するのに15分かかっていたが、1月には6名分を12分で入力できた。また、タイピングは打ち間違えせず正確に入力し、分かる範囲で漢字変換もできていた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出身地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>埼玉県</td></tr> <tr><td>東京都</td></tr> <tr><td>神奈川県</td></tr> <tr><td>沖縄県</td></tr> <tr><td>東京都</td></tr> <tr><td>神奈川県</td></tr> </tbody> </table> <p>図12：エクセルデータ（一部）</p>	出身地	埼玉県	東京都	神奈川県	沖縄県	東京都	神奈川県
出身地									
埼玉県									
東京都									
神奈川県									
沖縄県									
東京都									
神奈川県									

<p>パワーポイント</p> 	<p>イラストや文字を組み合わせでクリスマスカードや年賀状の作成をする活動の際に、手順書とサンプルを提示することで、自分で使える無料素材を探してレイアウトを考えることができた。</p> <p>中村タイム（昼休み）やることリストや自立活動リストなどを自分で作成して、スケジュールの一環として取り入れるようになった。</p>	 <p>図13：中村タイム（昼休み）リスト</p>
--	--	---

・自立活動

体全体のストレッチや体幹力向上などを重点的にやっている。体の調子に合わせてiPadで動画を選び、メニューを決めて取り組んでいる。

エピソード（指導記録より抜粋）

12月11日 (金)	自立活動では、足湯をしながらタブレットでストレッチについての調べ学習を行った。足がつること、身長を伸ばしたいこと、ひざの痛みを気にして検索していた。
12月15日 (金)	自立活動では、「中山さんに君の世界一楽な筋トレ」という動画を見ながらトレーニングをした。「楽しい、またやりたい。」と生徒より
1月13日 (水)	自立活動では、動画トレーニングを選択し座ったままできるトレーニングを行った。



図14：自立活動リスト

生徒自身がメニューを決めたり、できることを調べたりする際に、iPadを使ってストレッチの動画を探することができるようになり、主に体を動かす「〇〇タイム」は順調に取り組んでいる。

いろいろな場面でICT機器を活用した学習ができており、生徒自身もICT機器を活用することで学習がはかどることを実感して、学習習慣が身についてきたと感じている。

これからの課題

スケジュールを確認し見通しをもつことで、学校の過ごし方は安定してきている。家庭での過ごし方、社会に出た時の時間の確認など、自分で時間を確認して行動を決めていくことが今後の課題となってくる。そこでの困り感からストレスを感じる時に、新たなストレスコントロールが必要になってくるので、状況に応じた対応を検討することが大切だと考える。

ICT機器の活用に関して、次年度以降も引き続き活用していくことで生徒のICT活用能力が高まっていくと考えられる。学習に必要なスキルが身につき自信につながる一方で、好きな動画に固執してしまったり、夢中になりすぎてしまったりするためスクリーンタイムをかけた条件付きの活用が続いている。教科担当の教員とも情報を共有しながら次年度への方向性を確認していく。

- スケジュールを確認し見通しをもつことで、学習時間を守ることを徹底する。
- 友達の号令、アラーム機能の活用などスクリーンタイム以外の方法を模索する。
- 今後は生徒自身が時間を決めてiPadを使うことも視野に入れて取り組んでいきたい。
- 作成したデータ（作品）を見せ合ったり、教え合ったりすることで友達とコミュニケーションを図りながら学習を深めていく。
- 課題別の時間などでICT機器を操作する時間に充ててICT活用スキルを高め自信につなげる。